



自分の志望学部に近い例文を1本選び、下の「書き換えるときに変える場所」に沿って自分の言葉に置き換えると下書きが仕上がります。丸写しではなく、構成と型を借りて自分の経験に差し替える使い方を想定しています。

経済学部 800字の例文(本文788字)

私が経済学部を志望する理由は、地元商店街の空き店舗が増えていく様子を見て「人の流れとお金の流れはどう関係しているのか」という疑問を持ったことにある。高校2年の探究学習では、この疑問を出発点に、商店街の来街者数と近隣の大型商業施設の開店時期を時系列で並べ、公開されている地域経済のデータと合わせて変化の要因を整理した。数字を並べる作業だけでも、感覚で「寂れた」と語られてきた変化を、時期ごとに区切って比較できることに気づいた。調べる中で、来街者数の減少は大型施設の開店だけでなく、駐車場の有無や営業時間の違いなど複数の要因が重なって起きていることが見えてきた。ひとつの数字だけを見て原因を決めつけると判断を誤ることも学び、要因を一つずつ切り分けて記録する方法を自分なりに整理した。この整理を通じて、感覚的に語られがちな地域の変化も、期間を区切ってデータを並べ直すことで、根拠を持って説明できる部分と、まだ説明しきれない部分に分けられることを実感した。

貴学経済学部を志望するのは、地域経済やまちづくりを扱う演習が用意されており、統計データを使った分析手法を体系的に学べると学部案内で確認できたためである。入学後は、ミクロ経済学と統計学の基礎を固めたうえで、自分の地元を含む地方都市の商業集積の変化を、公開統計を用いて継続的に分析していきたいと考えている。ゼミでは商店街や自治体へのヒアリングを取り入れた研究も行われていると知り、教室の中だけで完結しない学び方に関心を持っている。授業で扱う分析手法を、自分が探究学習で使ってきた地域のデータに当てはめて検証し直したいとも考えている。

将来は、地域の経済データを読み解き、行政や事業者の意思決定を支える仕事に携わりたいと考えている。そのためには、経済学の理論とデータ分析の技術を両輪で身につける必要があると考え、貴学経済学部を志望する。

この例文のどこが効いているか

- ・「疑問→調べた内容→わかったこと」の順で、探究学習の経験が志望理由の根拠になっている
- ・「見えてきた」「学んだ」など、断定しすぎない言い方で気づきを書いている
- ・大学のどの制度・演習を見て志望したかを、資料名の確認込みで具体的に書いている

書き換えるときに変える場所

- ・冒頭の「地元商店街の空き店舗」を、自分が実際に疑問を持ったきっかけに変える
- ・「商店街の来街者数」の調べ方を、自分が実際に扱った探究学習のテーマ・データに変える
- ・「地域経済やまちづくりを扱う演習」を、志望大学の実際の学部案内やシラバスで確認できた内容に変える

国際学部 800字の例文(本文761字)

私が国際学部を志望するきっかけは、高校で受け入れた交換留学生との交流にある。当初は英語での日常会話にも戸惑ったが、半年ほど一緒に過ごす中で、同じ「学校行事」という言葉でも国によって前提にしている制度や文化的な背景が大きく異なることに気づいた。探究学習では、この気づきをもとに、日本と留学生の母国それぞれの教育制度を公開資料で比較し、行事や評価方法の違いがどのような社会的背景から生まれているのかを整理した。

比較を進めるうちに、制度の違いを表にまとめるだけでは背景まで説明できないことにも気づき、歴史や地理の授業で学んだ内容と結びつけて理由を考える作業を加えた。この作業を通じて、制度の違いを単に並べるだけでは理解が浅くなり、なぜその制度が採られてきたのかという背景を合わせて調べることの必要性を実感した。

調べる過程で、ひとつの国の制度をそのまま「良い・悪い」と評価するのではなく、その国が置かれてきた歴史的・社会的な文脈と合わせて理解する必要があると考えるようになった。この視点は、留学生と対話を続けるうえでも役立った。

貴学国際学部を志望するのは、地域研究と語学教育を組み合わせたカリキュラムが用意されており、1つの地域を多角的に学べる体制が整っていると学部案内で確認できたためである。入学後は、教育制度の比較を続けてきた関心を生かし、比較教育や地域研究の科目を軸に学びを深めたいと考えている。長期の留学制度も用意されていると知り、現地での学びも視野に入れている。1つの国や地域を継続して学ぶことで、表面的な比較にとどまらない理解につなげたい。

将来は、異なる制度や価値観を持つ人同士が協力する場で、背景の違いを言語化して伝える役割を担いたいと考えている。そのための土台として、貴学国際学部で地域研究と語学の両方を学びたい。

この例文のどこが効いているか

- ・ 個人的な出来事(留学生との交流)を、探究学習という調べる活動に発展させている
- ・ 「良い・悪いで評価しない」という自分なりの視点を、調べた結果から導き出している
- ・ 志望学部のカリキュラムの特徴を、学部案内の確認と結びつけて書いている

書き換えるときに変える場所

- ・ 「交換留学生との交流」を、自分が実際に異文化に触れたきっかけに変える
- ・ 「教育制度の比較」を、自分が探究学習で実際に扱ったテーマに変える
- ・ 「地域研究と語学教育を組み合わせたカリキュラム」を、志望大学の実際の科目名・制度に変える

文学部 800字の例文(本文736字)

私が文学部を志望する理由は、高校の図書委員会の活動で、同じ小説でも読み手によって受け取り方が大きく異なることに興味を持ったためである。委員会で開いた読書会では、同じ短編を読んだ生徒同士でも「主人公の選択に共感できる」という意見と「納得できない」という意見が分かれ、その違いがどこから生まれるのかを知りたいと考えるようになった。探究学習では、この関心をもとに、同じ作品に対する複数の書評や解説を集め、評価の分かれ方と、それぞれの評者が重視している観点の違いを整理した。作業を進める中で、感想を「好き・嫌い」で終わらせず、どの部分の描写を根拠にその評価に至ったのかを一つずつ書き出す方法を試した。この作業を重ねる中で、同じ場面の描写でも注目する言葉によって受け取り方が変わることに気づき、根拠となる箇所を引用しながら考えを整理する習慣がついた。

調べていく中で、作品の評価は書かれた時代の価値観や、評者自身の立場によっても変わりうるが見えてきた。ひとつの「正しい読み方」を探すのではなく、なぜそう読めるのかという根拠を言葉にする姿勢が大切だと考えるようになった。

貴学文学部を志望するのは、近代文学を対象に、作品を歴史的な文脈と合わせて読み解く演習が用意されていると学部案内で確認できたためである。入学後は、作品そのものの分析に加えて、書かれた当時の社会的背景も合わせて学ぶことで、読みの根拠を言葉にする力を伸ばしたいと考えている。読書会で経験した意見の分かれ方を、演習の中で理論立てて説明できるようになりたいとも考えている。

将来は、言葉を通じて考えを整理し、伝える力を生かせる仕事に携わりたいと考えている。そのために、貴学文学部で文学作品を多角的に読み解く力を身につけたい。

この例文のどこが効いているか

- ・「読書会での気づき→調べる活動」という流れで、日常の疑問を探究に接続している
- ・「正しい読み方を探すのではなく」と、断定を避けた自分なりの結論を書いている
- ・学部で学びたい内容を「作品分析+歴史的背景」と具体的に分解して書いている

書き換えるときに変える場所

- ・「図書委員会の読書会」を、自分が実際に文学に関心を持ったきっかけに変える
- ・「複数の書評や解説の比較」を、自分が探究学習で実際に扱ったテーマに変える
- ・「近代文学を対象にした演習」を、志望大学の実際の科目・ゼミ名に変える

法学部 800字の例文(本文738字)

私が法学部を志望するきっかけは、生徒会の規則改定に関わった経験にある。校則の一部を見直す議論の中で、「禁止する理由」を明文化しないまま運用されているルールがあることに気づき、規則の目的と条文が一致しているかを確かめる必要があると感じた。議論では、生徒同士でも「禁止してよい」「見直すべきだ」と意見が分かれ、その根拠を条文に沿って説明する難しさも実感した。探究学習では、この経験をもとに、身近な校則やルールを題材に、目的と条文の対応関係を整理し、他校の公開されている規則例とも比較した。比較の際は、条文の文言だけでなく、その規則が作られた経緯や運用の実態にも目を向け、目的と条文がずれている箇所を洗い出す作業を行った。この作業を通じて、条文の文言だけを直しても、運用する側の理解が伴わなければ形だけの改定になりかねないことにも気づいた。

調べる中で、同じ目的のルールでも学校によって条文の書き方が異なり、その違いが運用のしやすさにも影響していることが見えてきた。ルールは一度決めたら終わりではなく、目的に照らして見直す仕組みが必要だと考えようになった。

貴学法学部を志望するのは、条文の解釈だけでなく、制度がつくられた背景や目的まで遡って考える演習が用意されていると学部案内で確認できたためである。入学後は、ルールの目的と条文の対応関係を整理してきた関心を生かし、法学の基礎科目を軸に、制度の設計と運用の両方を学びたいと考えている。生徒会での経験を、より広い制度の議論として学び直したいとも考えている。

将来は、ルールや制度を、それがつくられた目的に立ち返って点検し、必要に応じて改善につなげる仕事に携わりたいと考えている。そのために、貴学法学部で法解釈と制度設計の両方を学びたい。

この例文のどこが効いているか

- ・生徒会という身近な経験を、規則の比較という調べる活動に発展させている
- ・「目的と条文の対応関係」という自分なりの分析軸を一貫して使っている
- ・学びたい内容を「条文解釈」と「制度設計」に分けて具体的に書いている

書き換えるときに変える場所

- ・「生徒会の規則改定」を、自分が実際にルールや制度に関心を持ったきっかけに変える
- ・「他校の規則例との比較」を、自分が探究学習で実際に扱った題材に変える

- ・「制度がつくられた背景まで遡って考える演習」を、志望大学の実際の科目・ゼミ名に変える

800字の型(構成の作り方)

800字は次の5つのまとまりで組み立てると、書く分量の見当がつけやすくなります。

1. きっかけ・問題意識(150字前後): 疑問や関心を持った具体的な出来事を書く
2. 調べたこと・わかったこと(250字前後): 探究学習などで実際に調べた内容と、そこから見えてきたことを書く
3. 志望理由(150字前後): その大学・学部を選んだ理由を、学部案内やシラバスで確認できた具体的な制度・演習と結びつけて書く
4. 入学後に学びたいこと(150字前後): 身につけたい力や、取り組みたい学びの内容を具体的に書く
5. 将来像とのつながり(100字前後): 学びをどう生かしたいかを一言でまとめる

書く順番はこの通りでなくてもよく、まず1と2を書き出してから3～5を組み立てる進め方もあります。見直すときは、自分の経験と大学の制度を具体的に結びつけられているかを基準にするという方法があります。

提出前セルフチェック欄

- ・ ☐ 指定の文字数の範囲(800字なら720～880字程度)に収まっているか
- ・ ☐ 冒頭できっかけ・問題意識が具体的な出来事として書かれているか
- ・ ☐ 調べた内容とわかったことが、事実と自分の考えを分けて書かれているか
- ・ ☐ 志望理由が、大学・学部案内やシラバスで確認できた具体的な制度・演習と結びついているか
- ・ ☐ 学部名や大学名を、公表されている正式名称で書いているか
- ・ ☐ 「絶対」「必ず」など言い切りすぎる表現がないか
- ・ ☐ 他人の文章をそのまま写した部分がないか
- ・ ☐ 誤字・脱字・変換ミスがないか(音読して確認する方法があります)
- ・ ☐ 提出先の様式(手書き・Web入力・文字数指定)に合っているか
- ・ ☐ 提出期限と提出方法を、募集要項で確認したか

参考

- ・ 志望大学の学部案内・シラバス(大学公式サイトで公開されているもの)は、志望理由と大学の制度を結びつける際の一次情報になります